

学力向上のための手びき 日々の授業づくりの基礎・基本【チェックシート】

平成26年度も残り2か月ほどとなりました。1～3月は今年度のまとめをする時期です。学習面では、指導要領に示された学習内容の定着はもちろん、学習規律の定着や学び方の確立なども子どもたちにきちんと身に付けさせていきたいところです。

右に示しているチェックシート（学力向上のための手びきより）をもとに、1単位時間の授業構成を再度、確認していただき、充実した授業となるように工夫しましょう。

また、新年度のスタートをよりスムーズにするためには、学年や学校で共通した実践を展開することが大切です。担任が替わったり、クラス替えがあったりしても、子どもたちは変わりません。学年間で連携を図った指導を念頭に据え、来年度への引き継ぎを意識した指導をお願いします。

日々の授業づくりの基礎・基本【チェックシート】

- 1 つかむ**（4ページを参照）
 - 意欲を高める手立てをとっていますか
 - めあてを板書していますか
 - めあてを読ませたり、書かせたりしていますか
 - めあては、終末で自己評価ができるものになっていますか
- 2 見通す**（4ページを参照）
 - 1単位時間の活動の流れを具体的に示していますか
 - 先生の話す時間を短くし、子どもの活動の時間を確保していますか
- 3 考える**（5ページを参照）
 - 子どもが考える時間を確保していますか
 - 自分の考えをもたせるために、ヒントカードやキーワードを示すなど、手立てをとっていますか
 - 考えたことを書かせていますか
- 4 考え合う**（5・6ページを参照）
 - 他の人と考えを交流する場を確保していますか
 - 交流のための具体的な視点を示していますか
 - 子どもの発言をつなげたり、比べたりしていますか
- 5 振り返る**（7ページを参照）
 - 学習のまとめを行っていますか
 - 子どもに自己評価をさせていますか
 - 時間内に終わっていますか

新教育課程の動向 Part 1 ～外国語活動編～

文部科学省が「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表してから小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実が図られています。計画においては、右に示したような初歩的な英語の運用能力を養うことを目指して、英語の指導力を備えた担任に加え、専科教員を積極的に活用しながら実施する計画です。

- 現在**
- 高学年
 - 活動型
 - 週1コマ
 - コミュニケーション能力の素地を養う
 - 音声中心
 - ALTの活用

- 2020年から**
- 中学年 活動型週1～2コマ程度
 - 高学年 教科型週3コマ程度
 - モジュール活用
 - 初歩的な英語の運用能力を養う
 - 英語指導力を備えた学級担任に加え、専科教員の積極的活用

文部科学省 HP「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm

小学校における外国語の指導において、活動の指示や賞賛の言葉を英語を使って表現すること、自身の英語力を向上すること、コミュニケーション活動を工夫すること（英語を使う必然性のあるもの、児童の興味関心、知的好奇心に合うものを題材に）など、いまの外国語活動を充実させることが求められます。今後「聞く」「話す」に加え、積極的に「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の素地を養っていくことになるため、小中連携を一層深め、系統立った指導を続けていく必要があるでしょう。

必見！「学力向上のための手びき」～事例集～

西部型授業や指導技術等を掲載している「学力向上のための手びき」に、具体的な実践を集めた『事例集』をさらに作成しました。学習過程にそって、板書や活動の例を載せていますので、ぜひ、西部教育事務所のホームページにアクセスして見ていただき、参考にして授業を組み立ててほしいと思います。

ここから→<http://cms.saga-ed.jp/hp/s-kyoikujimusho>

